

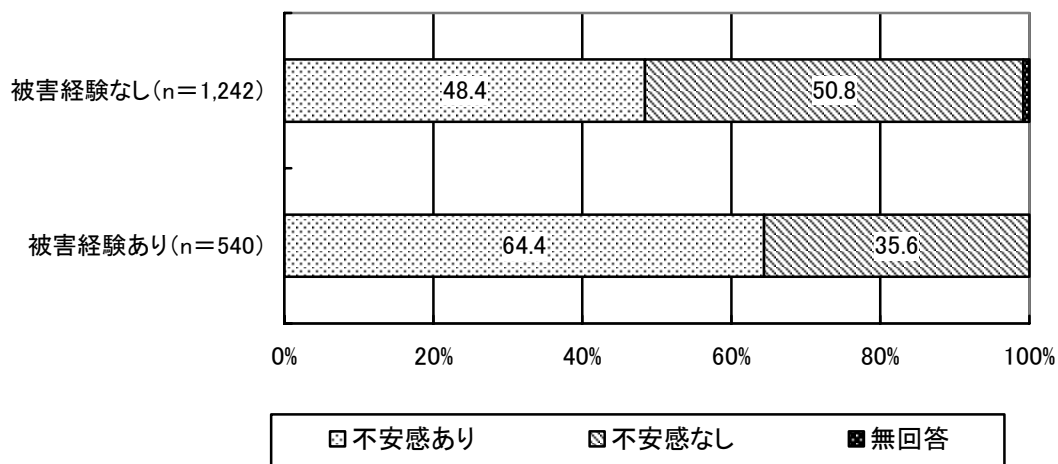
第2章 犯罪被害の実情と不安感、防犯意識

1. 犯罪の被害経験と不安感

犯罪の被害経験によって、人々の犯罪の被害にあうのではないかと不安感にどのような影響があるだろうか。まず、犯罪の被害経験の有無と、「あなた自身が、日頃、犯罪の被害にあうのではないかと不安を感じることがありますか」という問に対する回答との関係を見た。回答は、「よくある」「たまにある」「ほとんどない」「全くない」の4件法であるが、「よくある」と「たまにある」という回答を合わせて「不安感あり」とし、「ほとんどない」と「全くない」を合わせて「不安感なし」とした。

図Ⅲ－2－1は、被害経験の有無と上述の分類との関係を見たものである。犯罪の被害経験なし群では、自分自身が犯罪の被害にあうのではないかと不安を感じているという回答が48.4%、不安を感じていないという回答が50.8%で、その比率にほとんど差がない。これに対して、犯罪の被害経験あり群では、不安を感じているという回答が64.4%、不安を感じていないという回答が35.6%であり、被害経験のある群に犯罪の被害にあうのではないかと不安感が強い。

図Ⅲ－2－1 犯罪の被害経験の有無と回答者自身の不安感

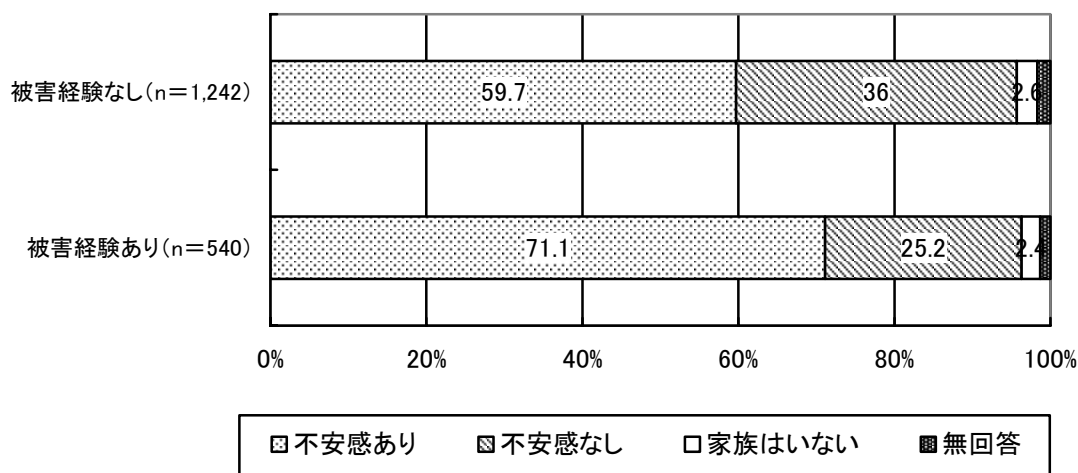


図Ⅲ－2－2は、犯罪の被害経験の有無と、「あなたの同居の家族が、犯罪に被害にあうのではないかと不安を感じることがありますか」という問に対する回答との関係を見たものである。回答の選択肢は、「よくある」「たまにある」「ほとんどない」「全くない」

の4件法に、「家族はいない」という選択肢を加えてある。このうち、「よくある」と「たまにある」という回答を統合し、家族に対する犯罪被害の「不安感あり」とし、「ほとんどない」と「全くない」という回答を統合して、「不安感なし」とした。

犯罪の被害経験なし群では、同居の家族が犯罪の被害にあうのではないかとという「不安感あり」という回答が59.7%、「不安感なし」という回答が36.0%であり、被害経験がなくても家族に対する不安感が強い。犯罪の被害経験あり群では、「不安感あり」という回答が71.1%、「不安感なし」という回答が25.2%であり、被害経験のない群に比べて家族が犯罪に被害にあうのではないかとという不安感が強い。また、図Ⅲ—2—1の自分自身が犯罪の被害にあう不安感と比較すると、全体的に、同居の家族に対する不安感の方が強いといえる。

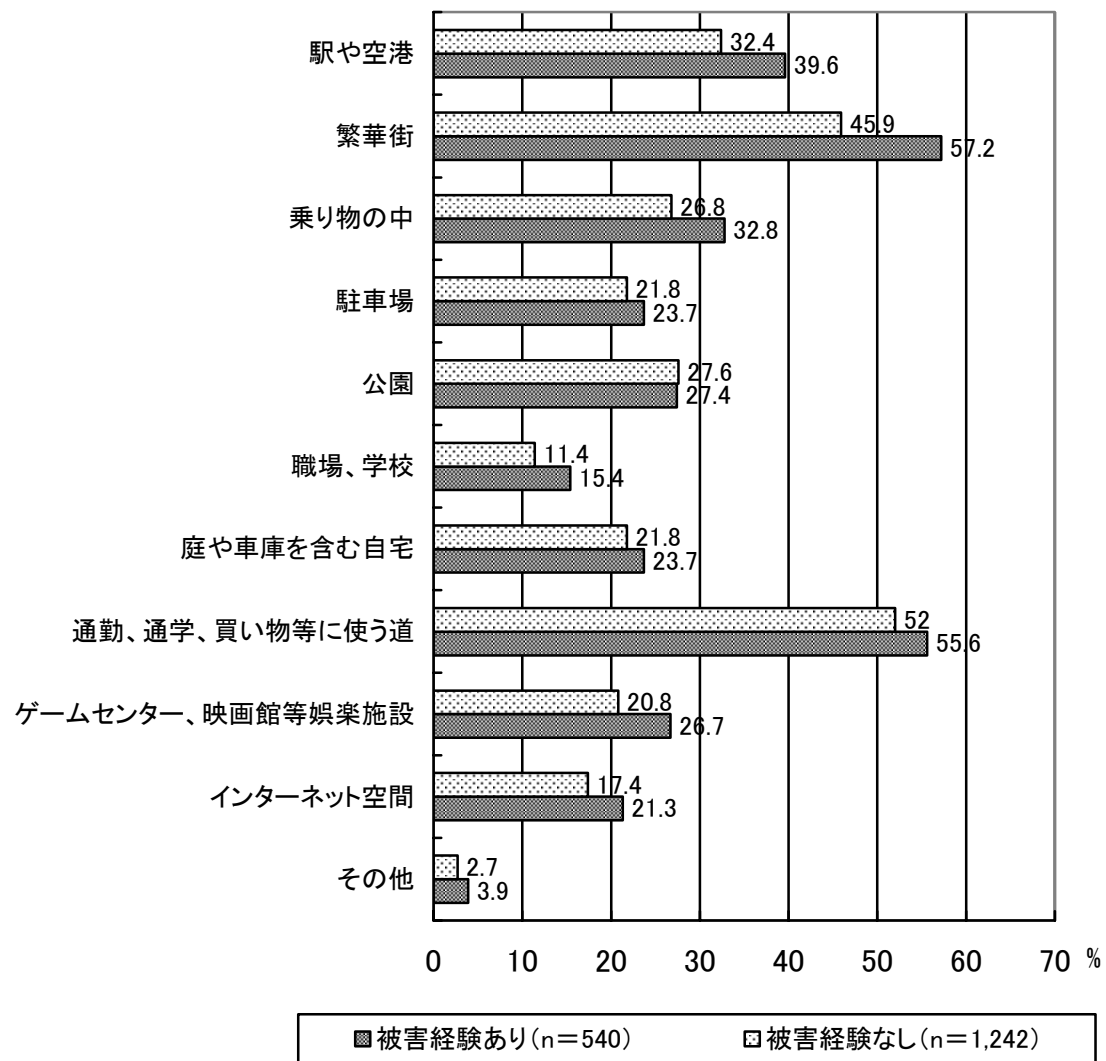
図Ⅲ—2—2 犯罪の被害経験の有無と家族に対する不安感



図Ⅲ—2—3は、犯罪の被害経験の有無と、「あなたは日常の行動範囲にあるどのような場所で、あなた自身や同居の家族が犯罪の被害にあうのではないかとという不安を感じることがありますか」という問に対する回答との関係を見たものである。

公園については、被害経験の有無によって不安感があるという回答者の比率に差が見られないが、その他の場所についてはいずれも、被害経験あり群の方が被害経験なし群よりも不安感があるという回答者の比率が高い。特に、繁華街、駅や空港、乗り物の中、娯楽施設など、不特定多数の人々が集まる場所に対して不安を感じている回答者の比率が高い傾向がある。

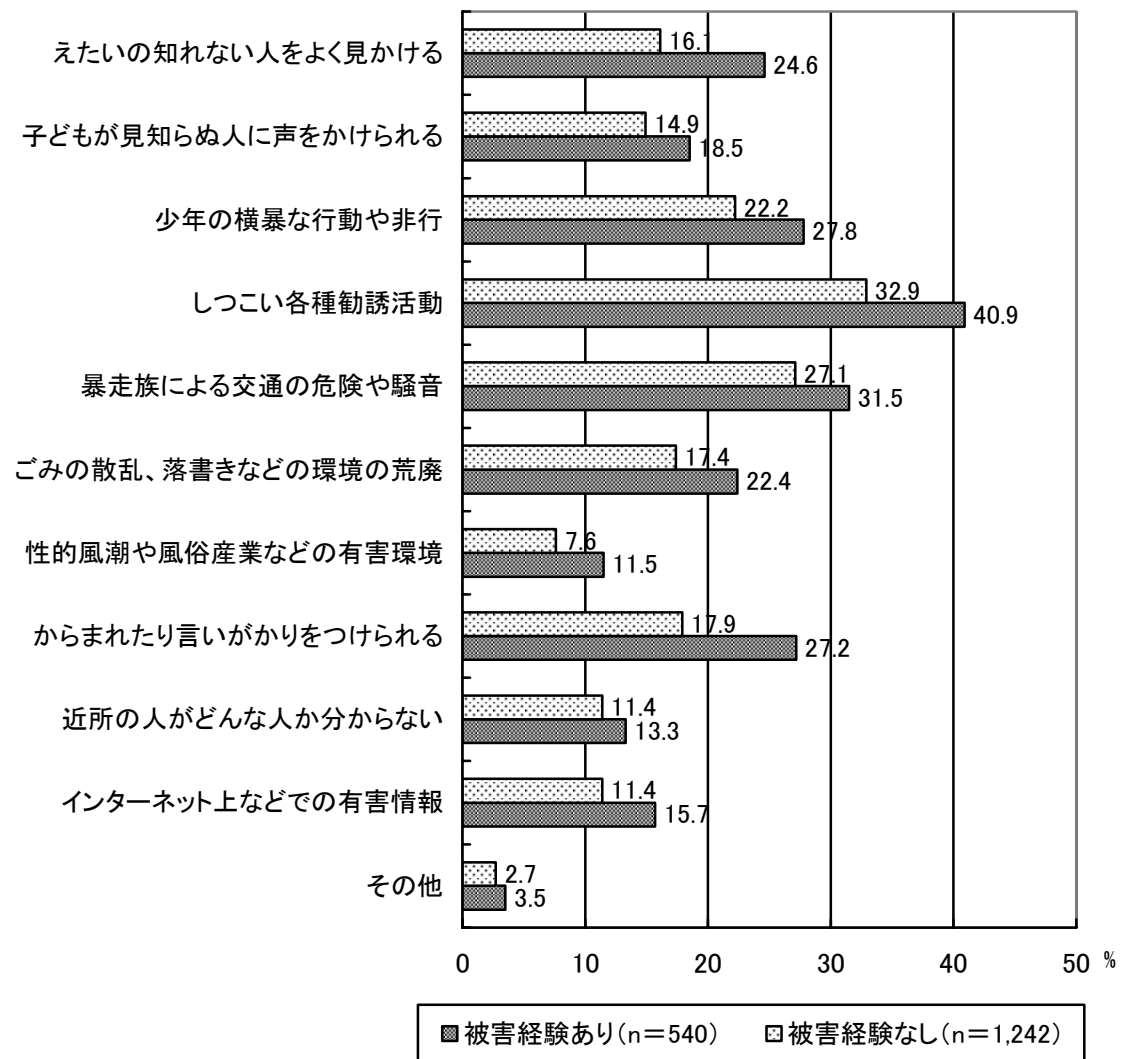
図Ⅲ—２—３ 犯罪の被害経験の有無と不安を感じる場所（複数回答）



図Ⅲ—２—４は、「あなたは今お住まいの地域で、次のような状況を実際に見聞きして不安を感じることがありますか」という問の対する回答を、犯罪の被害経験の有無別に示したものである。

いずれの状況についても、犯罪の被害経験なし群と比較して、被害経験あり群の方が不安感を持っているという回答者の比率が高い。特に、「からまれたり言いがかりをつけられる」「えたいの知れない人をよく見かける」「しつこい各種勧誘活動」など、対人接触を伴う状況における不安感が強い傾向がみられる。

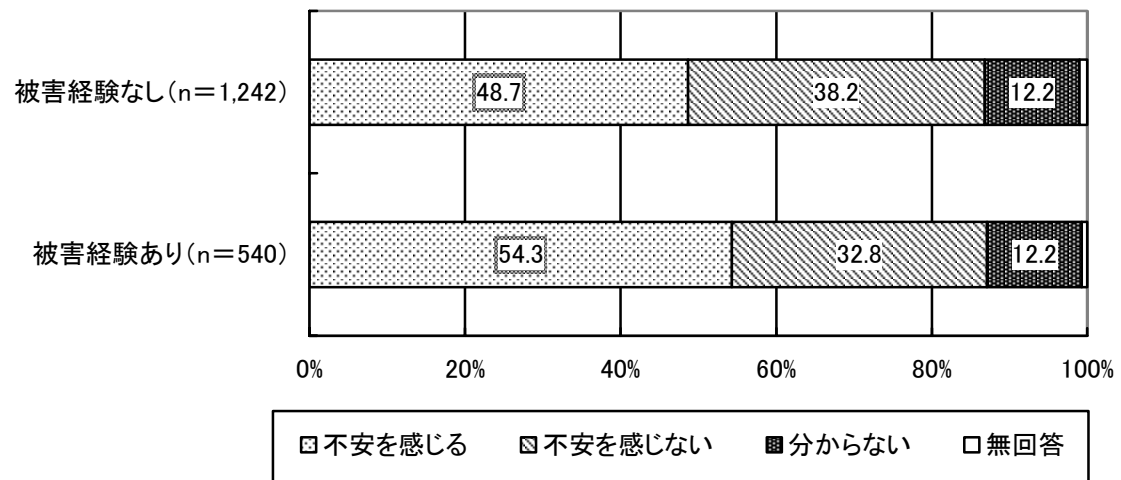
図Ⅲ—2—4 犯罪の被害経験の有無と不安を感じる状況（複数回答）



図Ⅲ—2—5は、「あなたは夜11時を過ぎてから、住んでいる地域を1人で歩いているとき、犯罪にあう不安をどの程度感じていますか」という問に対する回答を、犯罪の被害経験の有無別に示したものである。回答は、「非常に不安を感じる」「ある程度不安を感じる」「あまり不安を感じない」「全く不安を感じない」の4件法に、「分からない」という選択肢を加えてある。「非常に不安を感じる」と「ある程度不安を感じる」を統合して「不安を感じる」とし、「あまり不安を感じない」と「全く不安を感じない」を統合して「不安を感じない」として集計した。

被害経験なし群では、不安を感じるという回答が48.7%、不安を感じないという回答が38.2%となっている。被害経験あり群の回答では、不安を感じるが54.3%、不安を感じないが32.8%である。両群とも約半数が不安を感じると回答しているが、その比率は被害経験あり群にやや高い。

図Ⅲ—2—5 犯罪の被害経験の有無と夜間の一人歩きの不安

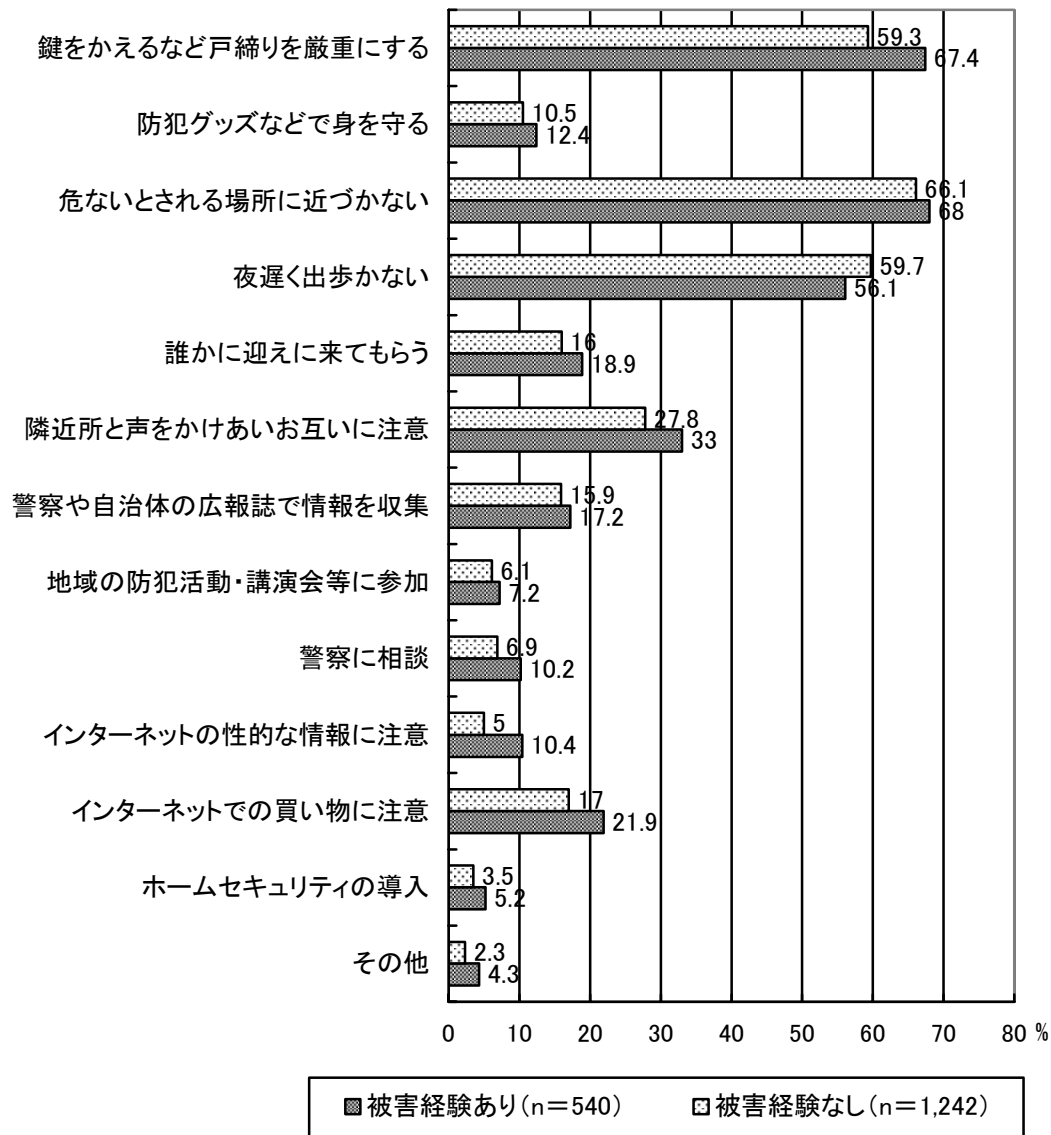


2. 犯罪の被害経験と防犯意識

ここでは犯罪の被害経験の有無と防犯意識との関連についてみていく。

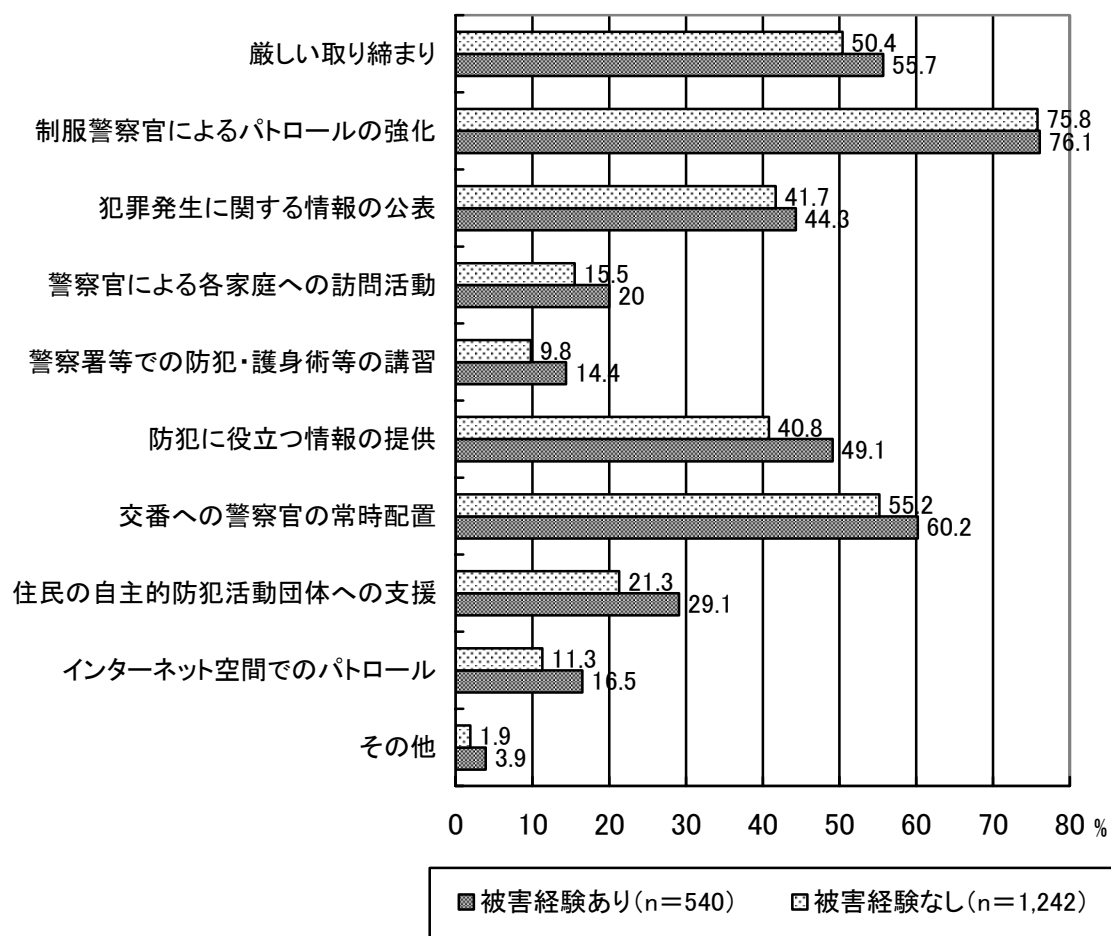
図Ⅲ—2—6は、「犯罪の被害にあわないためにあなた個人は何をしていますか（しましたか）」という問に対する回答と、被害経験の有無との関係をみたものである。「夜遅く出歩かない」という回答は、被害経験あり群（56.1%）よりも、被害経験なし群（59.7%）でやや高率である。この他の回答者自身の防犯対策についてはいずれも、被害経験あり群の比率が高く、全体的にみれば、犯罪の被害経験が個人の防犯対策を促進していることが窺える。

図Ⅲ—２—６ 犯罪の被害経験の有無と防犯対策（複数回答）



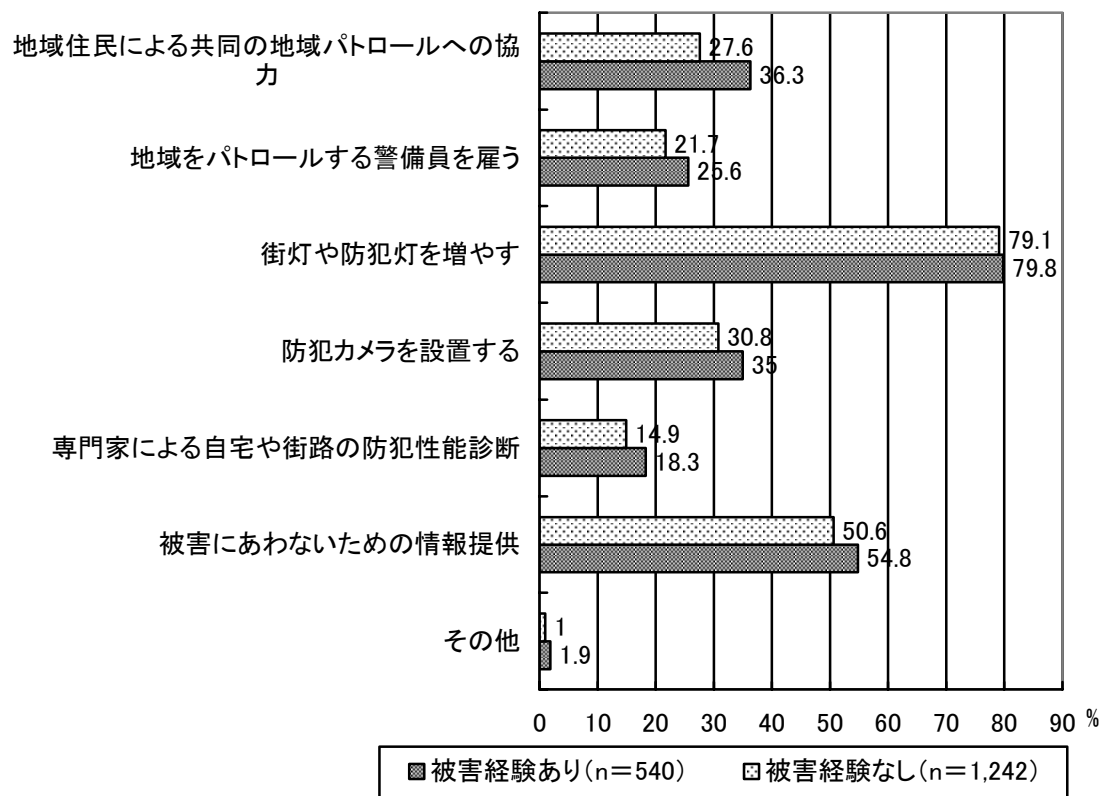
図Ⅲ—２—７は、犯罪の被害経験の有無と警察に対する要望との関連についてみたものである。調査票では、「あなたは、犯罪の被害にあわないために警察に何をして欲しいですか」と尋ねている。図にみられるように、「制服警察官によるパトロールの強化」については被害経験の有無による違いがなく、被害経験の有無に関わらず警察への要望が最も多い対応である。その他の警察への要望については、被害経験なし群よりも被害経験あり群の方に割合が高い。被害経験あり群に割合が高かったのは、「防犯に役立つ情報の提供」「住民による防犯パトロール等の自主的な防犯活動をしている団体への支援」「厳しい取締り」「交番への警察官の常時配置」などであった。

図Ⅲ—2—7 犯罪の被害経験の有無と警察に対する要望(複数回答)



図Ⅲ—2—8は、犯罪の被害経験の有無と行政に対する要望との関連についてみたものである。調査票では、「あなたは、地域の安全を守るために行政に何をして欲しいですか」と尋ねている。被害経験の有無に関わらず、約80%の回答者が「街灯や防犯灯を増やす」ことを行政に要望している。その他の行政への要望については、被害経験のある回答者に行政に対するさまざまな要望がやや強い傾向がみられる。

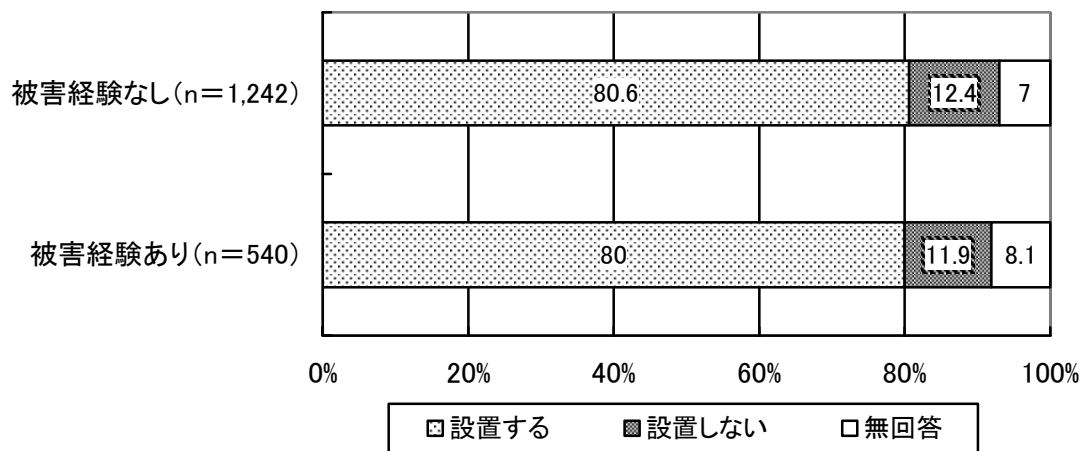
図Ⅲ—2—8 犯罪の被害経験の有無と行政に対する要望(複数回答)



図Ⅲ—2—9は、「あなたは、公共の場所に防犯カメラを設置して安全・安心を確保することと、個人のプライバシーを尊重するために防犯カメラを設置しないことを比べた場合、どちらの方針を支持しますか」という問に対する回答を、犯罪の被害経験の有無別に示したものである。回答は、「安全・安心の確保のために設置する」「どちらかといえば安全・安心の確保のために設置する」「どちらかといえばプライバシー尊重のため設置しない」「プライバシー尊重のため設置しない」の4件法である。「安全・安心の確保のために設置する」と「どちらかといえば安全・安心の確保のために設置する」という回答を「設置する」とし、「どちらかといえばプライバシー尊重のため設置しない」と「プライバシー尊重のため設置しない」という回答を「設置しない」として、集計した。

図Ⅲ—2—9にみられるように、被害経験の有無による差はみられない。被害経験あり群および被害経験なし群ともに、プライバシー尊重のために設置しないという方針を支持する回答者は約12%であり、安全・安心の確保のために設置するという方針を支持する回答者は約80%である。この結果は、公共の場所に防犯カメラを設置することによる防犯効果の期待を示すものであろう。

図Ⅲ—2—9 犯罪の被害経験の有無と防犯カメラの設置についての意見



3. まとめ

犯罪の被害経験の有無によって、犯罪の被害にあうのではないかとという不安感および防犯意識にどのような影響があるかを検討した。

自分自身が犯罪の被害にあうのではないかとという不安を感じているという回答者は、犯罪の被害経験なし群では 48.4%であるのに対して、被害経験あり群では 64.4%であり、被害経験のある群に犯罪の被害にあうのではないかとという不安感が強い。同居の家族が犯罪の被害にあうのではないかとという不安については、不安感があるという回答者が被害経験なし群では 59.7%であるのに対して、被害経験あり群では 71.1%であり、被害経験のある群に家族が犯罪に被害にあうのではないかとという不安感が強い。また、自分自身が犯罪の被害にあう不安感に比較して、同居の家族に対する不安感の方が強い。犯罪の被害経験と不安を感じる場所との関係については、繁華街、駅や空港、乗り物の中、娯楽施設など、不特定多数の人々が集まる場所に対して不安感が高い傾向がある。犯罪の被害経験と不安を感じる状況との関係については、「からまれたり言いがかりをつけられる」「えたいの知れない人をよく見かける」「しつこい各種勧誘活動」など、対人接触を伴う状況における不安感が強い傾向がみられる。

犯罪の被害経験と防犯意識との関係については、全体的にみれば、被害経験が回答者自身の防犯対策を促進しているといえる。被害経験と警察に対する要望との関連については、被害経験のある群に割合が高かったのは、「防犯に役立つ情報の提供」「住民による防犯パトロール等の自主的な防犯活動をしている団体への支援」「厳しい取締り」「交番への警察官の常時配置」などの要望であった。